

お釈迦さまの十大弟子 舍利弗尊者

平成24年3月第4週放送

お釈迦さまの代表的な十人の弟子を十大弟子と呼びます、その弟子の中で「智慧第一（ちえだいいち）」と言われたのが舍利弗尊者です。

舍利弗尊者は、インドの言葉、サンスクリット語でシャーリプトラと、パーリ語ではサーリプッタと呼ばれます。また、『般若心経』を読まれる方でしたら、「舍利子」として出て参りますので、馴染みのある名前でしょう。

舍利弗尊者は、やはりお釈迦さまの十大弟子で「神通第一」とわれた目連尊者と一緒にお釈迦さまの弟子になりました。

二人はバラモンの出身でした。共にバラモン教に物足りなさや疑問を感じ、当時王舎城の方でそれぞれに新しい思想を持って活動をしていた六人の思想家の中の一人サンジャヤに師事します。

サンジャヤの思想は、相手に応じて応える詭弁で、鰻のように捕らえどころの無い教えでした。舍利弗尊者も目連尊者も七日でサンジャヤの思想全てを理解してしまいました。サンジャヤに変わって弟子達に教えたり、別の思想家との議論をする程の立場となりましたが、議論に勝っても二人の心は晴れません。舍利弗尊者と目連尊者は、サンジャヤを超える人を見つけたら、その人の教えを受けようと互いに約束していました。

ある日、舍利弗尊者は、お釈迦さまの最初の弟子で、五比丘の中の一人であるアッサジが托鉢をしているのを見かけ、その落ち着いた姿や清々しい立ち居振る舞いに心惹かれ、托鉢が終わるのを待って話しかけます。

「あなたの師匠は誰ですか？」

「私の師匠はお釈迦さまです」

「その方はどのような教えを説かれているのですか？」

「私のような修行者にその深い教えを説く事など出来るはずもありません・・・。」

と、アッサジは謙虚にもお釈迦さまの教えを説きませんでした。続いてお釈迦さまの縁起についての教えを示します。

『諸々の物事は原因によって生じ、原因によって滅する。』

お釈迦さまはその原因を説かれた。

偉大なお釈迦さまはこのように説かれた。』

この教えを聞いた舍利弗尊者は、後に「^{ちえだいいち}智慧第一」と言われるほどの知識と知恵によってその教えの深さを知り、目連尊者と共にお釈迦さまの弟子となりました。

^{ほう}縁起の法を正しく理解し、^{じっせん}清く実践していた舍利弗尊者であったので、お釈迦さまは「智慧第一」と認められ、そう呼ばれるようになるのです。

— 終 —